

# 令和8年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科	学年	1年
----	-----	----	----

## 1 学習の目的

■生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

## 2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
2 学 期	(1学期～2学期10月中旬まで 技術科を学習します)  家庭分野のガイダンス  A 家族・家庭生活 1 今の自分とこれから 2 家庭のはたらきと家庭の仕事 3 多様な家族 4 かかわり合う地域と家族 5 持続可能な家庭生活  B 衣生活 1 衣服のはたらきと手入れ 2 衣服の選択と着方 3 布を用いた作品で生活を演出 4 持続可能な衣生活  生活の課題と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校家庭科の学習をふり返るとともに、3年間の学習内容の見直しをもつ。</li> <li>・自分の成長と家族や家庭生活との関わり、家族・家庭の基本的な機能について理解する。</li> <li>・多様な家族や家族関係について理解する。</li> <li>・家族生活は、地域との相互のかかわりで成り立っていることを理解する。</li> <li>・誰もが尊重される家庭・地域の生活をめざして課題をみつけ、実践的に取り組む。</li> <li>・衣服の社会生活との関わりがわかり、目的に応じた着用、個性をいかす着用および衣服の適切な選択について理解する。</li> <li>・衣服の選択や衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方を理解し、適切にできる。</li> <li>・製作の計画を立て、手縫いやミシン縫いで生活を豊かにする小ものをつくる。</li> <li>・資源や環境に配慮した衣生活をおくるために工夫できることを考える。</li> <li>・既習の内容から課題を設定し、解決に向けて計画を立て実践できる。</li> </ul>
	B 住生活 1 人間にとっての住まい 2 生活に必要な住空間 3 自然とともにある住生活 4 安全で健康な住生活 5 持続可能な住生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解する。</li> <li>・日本の気候風土と住まいについて理解する。</li> <li>・家庭内の事故の防ぎ方など家庭の安全を考えた住空間の整え方について理解する。</li> <li>・持続可能な社会の実現に向けて、さまざまな住まいと住まい方の工夫があることを知る。</li> </ul>

### 3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族・家族の機能、自分と家族の関わり、地域との関わりを理解する。</li> <li>・衣生活や住生活について理解し、それに係る技能を身につけている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・作品</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分なりに工程やデザインを工夫し、小物を製作することができたか。</li> <li>・家庭生活や衣食住に関わることから課題を見つけ、解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・作品</li> <li>・発表や話し合い</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣服の選択や手入れ、製作などについて、工夫し、実践しようとしている。</li> <li>・家族や地域の人々と協働について考え、工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決への取り組み</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・作品</li> <li>・自己評価や相互評価</li> </ul>

### 4 「確かな学力」のためのアドバイス

<p>1. 家庭科の学習について</p> <p>週2時間、後期のみ学習します。家庭と家庭生活では、自分の成長と、家族や家庭生活とのかかわり、家族や地域のとの関わりについて学びます。衣生活では、縫製での製作を通して、日常生活に必要な衣生活の知識や修繕の技能を学びます。ひとつひとつの作業を正しくていねいに取り組みましょう。また、準備や片付けも含めて、効率よく作業ができるよう工夫しましょう。住生活では、安全な住まいの整え方について学びます。毎時間を大切に使いましょう。</p> <p>2. 授業のきまり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1度しかないため、提出物や持ち物などしっかり確認し、忘れ物がないようにする。</li> <li>・忘れ物をした場合は必ずチャイムが鳴る前に申告する。</li> <li>・針やミシン、はさみなどを扱う場合は周囲に注意を払う。</li> </ul> <p>※学年評定は、3学期末に技術分野と合わせて技術家庭科として評価します。</p> <p>3. 授業で使う道具</p> <p>教科書、ワーク、ファイルは必ず用意。活動場所やその他の持ち物は教科係が確認すること。</p> <p>※学習内容によりタブレットPC、裁縫箱などを使用する場合があります。</p> <p>4. 授業中の少人数学習</p> <p>ミシン等の実技は少人数班で行います。また、座学ではグループで話し合い活動を行うことがあります。</p> <p>5. 家庭学習</p> <p>授業内で終わらなかった課題は宿題になります。紛失・忘れ物防止のためにも授業に集中して取り組み、時間内で終わられるようにしましょう。冬休みに家事手伝いなどの課題が出る場合があります。</p>
--

# 令和8年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科	学年	2年
----	-----	----	----

## 1 学習の目的

■生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

## 2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	B 衣食住の生活 1 人間にとっての食事  2 食品と栄養素  3 中学生に必要な食事  4 日常食の調理と地域の食文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割について理解し、毎日の食事に関心をもつ。</li> <li>・食品は栄養的特質により食品群に分類されることを理解する。</li> <li>・中学生に必要な栄養の特徴がわかる。</li> <li>・生鮮食品や加工食品の特徴を理解し、選び方や保存の仕方がわかる。</li> <li>・調理の流れと手順がわかり、計画を立てることができる。</li> <li>・安全や衛生に注意し、火・包丁・まな板・計量器具の使い方がわかる。</li> <li>・肉や魚、野菜の調理上の性質がわかり、調理できる。</li> <li>・地域で生産される食材や、地域の食文化を理解する。</li> <li>・日本の行事食について知り、行事食を生活に生かすことができる。</li> </ul>
2 学期	5 献立づくり  6 持続可能な食生活  (2学期10月中旬より技術科を学習します)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生が1日にとりたい食品と分量を知る。</li> <li>・中学生が1日に必要な栄養を考え、献立を立てることができる。</li> <li>・環境と日本の食糧事情に配慮し、持続可能な食生活を送るための工夫をすることができる。</li> </ul>

### 3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の食生活や栄養の特徴・食品などの基本的な知識が身についている。</li> <li>・基本的な調理技術について理解し、調理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理に必要な手順や時間を考え、工夫して実習することができる。</li> <li>・これからの生活を展望し、より良い食生活のために課題を見つけ、解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・発表や話し合い</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の食生活や栄養の特徴・食品に広く関心を持ち、食生活について学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テスト</li> <li>・課題解決への取り組み</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・自己評価や相互評価</li> </ul>

### 4 「確かな学力」のためのアドバイス

<p>1. 家庭科の学習について</p> <p>週2時間、後期のみ学習します。主にバランスの良い食生活や基礎的な調理について学びます。これらの知識は、健康に生きていくために不可欠です。少しでも多くの知識を得ることと、実際に体験してみることで得られることを大切に、学習したことを家庭生活で役立ててほしいと思います。</p> <p>2. 授業のきまり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週に1度しかないので、提出物や持ち物などしっかり確認し、忘れ物がないようにする。</li> <li>・忘れ物をした場合は必ずチャイムが鳴る前に申告する。</li> <li>・ガス台や、包丁、ピーラーなどを扱う場合は周囲に注意を払う。</li> </ul> <p>※学年評定は、3学期末に技術分野と合わせて技術家庭科として評価します。</p> <p>3. 授業で使う道具</p> <p>教科書、ワーク、ファイルは必ず用意。活動場所やその他の持ち物は教科係が確認すること。</p> <p>※学習内容によりタブレットPC、三角巾、エプロン、スーパーの広告などを使用する場合があります。</p> <p>4. 授業中の少人数学習</p> <p>調理実習等の実技や座学は4～5人の班で話し合いや活動を行うことがあります。</p> <p>5. 家庭学習</p> <p>授業内で終わらなかった課題は宿題になります。紛失・忘れ物防止のためにも授業に集中して取り組み、時間内で終わられるようにしましょう。</p> <p>夏休みに家事手伝いや調理の課題が出る場合があります。</p>
--

# 令和8年度 松戸市立常盤平中学校 学習の指針(シラバス)

教科	家庭科	学年	3年
----	-----	----	----

## 1 学習の目的

■生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を育成することを目指す。

## 2 学習計画

	学習内容	学習のねらい
1 学期	C 消費生活と環境	
	1 家庭生活と消費	・消費生活の仕組みについて理解する。
	2 購入・支払いと生活情報	・購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性について理解する。
	3 消費者被害と消費者の自立	・売買契約の仕組み、消費者被害と背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理ができる。 ・自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫することができる。
	4 持続可能な家庭生活	・環境に配慮した消費生活を考え、計画をたてて実践できるようにする。
2 学期	A 家族・家庭生活	
	1 幼児の生活と家族	・自身の幼児期を振り返り、幼児期への関心をもつ。 ・幼児の心身の発達の特徴を理解する。 ・子どもが育つ環境としての家族や周囲のおとなの役割について理解する。
	2 幼児とのかかわり	・幼児にとって遊びは生活そのものであり、十分な遊びを経験できる環境が重要であることを理解する。 ・身につけた基礎的・基本的な知識を活用し、工夫して幼児の発達に応じた絵本やおもちゃの製作をする。 ・幼児とのふれ合い体験について自分の課題をもち、ふれ合うときの留意点を理解する。 ・ふれ合い体験や製作を通し、感じたことや考えたことを話し合い、幼児への理解を深める。
3 学期	3 年間を振り返って	・家庭分野で学習したことを振り返り、今後の生活でのいかし方を考える。

### 3 評価

項目	評価の内容	評価の方法
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の心身の発達について理解している。</li> <li>・消費生活の仕組みや金銭管理、売買契約、消費者被害について理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・作品</li> </ul>
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児との関わり方について身につけた知識を活用し、工夫できる。</li> <li>・消費生活や環境に関わることから課題をみつけ、解決しようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・作品</li> <li>・発表や話し合い</li> </ul>
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児との関わり方について課題を見出し解決しようとしている。</li> <li>・消費生活と環境で学習したことをこれからの生活に生かそうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験</li> <li>・課題解決への取り組み</li> <li>・プリント</li> <li>・ワーク</li> <li>・作品</li> </ul>

### 4 「確かな学力」のためのアドバイス

1. 家庭科の学習について
 

技術・家庭科は週に1時間、技術科と家庭科の授業が交互にあります。主に「消費生活環境」と「家族：家庭生活の中から幼児について」を学びます。消費生活と環境を学ぶことにより、自立した消費者として責任ある消費行動について考えてほしいと思います。また、幼児について学習することで、自分自身の成長を振り返るとともに、幼児の心身の発達や特徴を学び、寛容な社会をつくる一員としてのかかわり方を考えてほしいと思います。

授業時数によっては、消費生活と幼児についての学習内容が前後する場合があります。
2. 授業のきまり
  - ・2週間に1度しかないので、提出物や持ち物などしっかり確認し、忘れ物がないようにする。
  - ・忘れ物をした場合は必ずチャイムが鳴る前に申告する。

※通年で隔週のため、評価評定は、技術科と家庭科の合算評価となります。
3. 授業で使う道具
 

教科書、ワーク、ファイルは必ず用意。活動場所やその他の持ち物は教科係が確認すること。

※学習内容によりタブレットPC、色鉛筆、画用紙などを使用する場合があります。
4. 授業中の少人数学習
 

製作や鑑賞など少人数班で行います。また、座学では4～5人組で話し合い活動を行うことがあります。
5. 家庭学習
 

授業内で終わらなかった課題は宿題になります。紛失・忘れ物防止のためにも授業に集中して取り組み、時間内で終わられるようにしましょう。出生体重など母子手帳を確認する課題があります。